

平成 22 年 3 月 23 日
 国立情報学研究所
 学術コンテンツ課

平成 21 年度 SPARC Japan 事業について（報告）

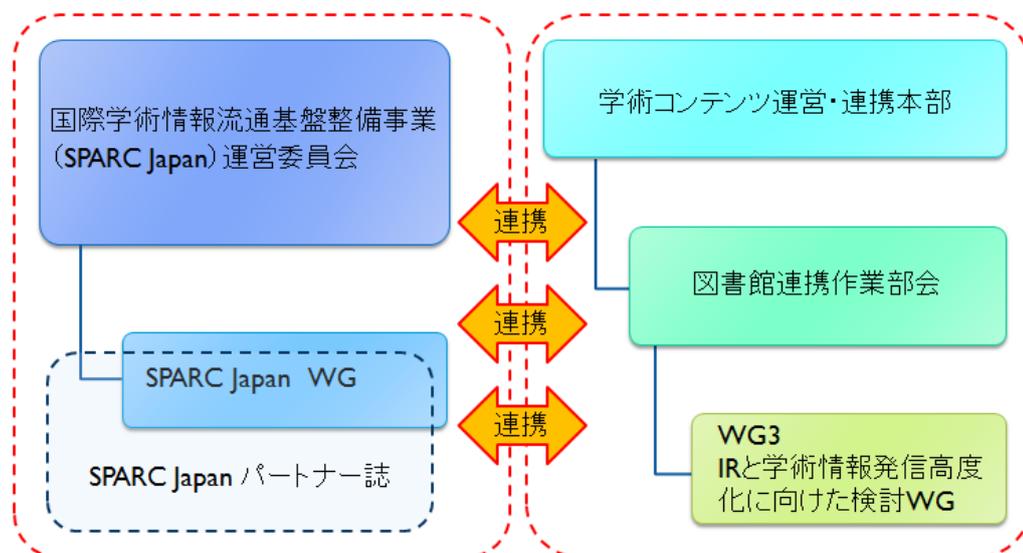
1. 平成 21 年度活動の方針

- (1) 平成 21 年度は、第 2 期と第 3 期の準備期間とし、次期活動の検討を行う。
- (2) 準備期間は、アドボカシー活動、国際連携、その他（学術情報流通の改善に関連するプロジェクト支援）を行う。

	20年度	21年度	22年度～24年度
国際学術情報流通 基盤整備事業 (SPARC Japan)	第2期 (H18～20)	準備期間	第3期(H22～24)
		連携	更に緊密な連携
CSI 学術機関リポジトリ 構築連携支援事業 (IRP: Institutional Repositories Program)	第2期(H20～21)		第3期(H22～24)

2. 組織体制

運営委員会の下にワーキンググループ（主としてイベント企画を担当）を設置し、学術コンテンツ運営連携本部と連携しつつ、事業を行った（詳細は裏面参照）。



【平成 21 年度 SPARC Japan WG】

名前	所属・役職
谷藤 幹子	物質・材料研究機構企画部科学情報室長
下越 弘子	日本数学会 Journal 編集部 Editorial Assistant
林 和弘	日本化学会学術情報部課長
永井 裕子	日本動物学会事務局長
高崎 金剛	応用物理学会事務局次長
水橋 慶	(社)電子情報通信学会 出版事業部 課長代理
山下 和子	化学工学会編集グループ課長代理
日岡 康恵	日本農芸化学会事務局編集係

3. 平成 21 年度活動

(1) アドボカシー活動

- ・ SPARC Japan セミナーの実施：
Open Access Week のイベント他，8 回実施 【資料 No.2-2】
- ・ SPARC Japan ニュースレターの発行：
企画・編集は外注。 第 2 号～4 号を発行 【参考資料】
- ・ 国際会議の開催：
DRFIC2009 (オープンアクセスリポジトリの現在と未来) 共同主催 (参加者 174 名)
- ・ 国際連携活動への参加：
COAR (オープンアクセスリポジトリ連合) の創設に協力 (17 カ国, 28 機関)

(2) 学会誌合同プロモーション支援

複数の学協会による合同プロモーション，マーケティングにおける人材育成を支援した。
今年度の実績は以下の通り。

- ・ 化学系合同パンフレット作成 【参考資料】
- ・ 生物工学会・化学系合同プロモーション支援 (国際学会：APBioChEC'09 への出展)
- ・ UniBio から生物系合同プロモーション支援 (国際学会：SICB への出展)
- ・ ALPSP トレーニングコース” Effective Journals Marketing”の実施 (18 名参加)

(3) 大学図書館，機関リポジトリとの連携

- ・ 数学ポータル の拡充 (北大・行木先生) 【資料 No.2-3】
- ・ パートナー誌と WG3 (IR と学術情報発信高度化検討) の懇談会 【資料 No.2-4】

(4) SPARC Japan 第 3 期のありかたの検討

第 3 期の大方針「オープンアクセスの推進」に向けた事業のありかたを検討した。

- ・ 第 2 期までの事業のまとめ (CSI 委託事業) 【資料 No.3-1】
- ・ 各委員からの意見のまとめ 【資料 No.4-2】